

平成30年第2回定例会（12月議会）

農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

平成30年12月3日

農 林 水 産 部

目 次

1	日本一を目指す品目の生産・販売状況について〔園芸振興課〕	1
2	ナラ枯れ被害の発生状況について〔森林整備課〕	3

1 日本一を目指す品目の生産・販売状況について

園芸振興課

1 えだまめ

(1) 目標 (H31)

- 京浜中央市場（東京都、横浜市、川崎市）における年間出荷量日本一

(2) 生産・販売状況

- 栽培面積は年々拡大しており、前年より1割増の922haとなった。
- 出荷量は、6月の低温や7月の少雨等の影響で前年の1割減となり、年間出荷量日本一は逃したものの、県産が出荷される7～10月期では、日本一達成の見込みである。
- 販売単価は前年より高く、系統販売額は過去最高に並ぶ13億円が見込まれる。

2 ねぎ

(1) 目標 (H33)

- 京浜中央市場における夏秋ねぎ（7～12月）出荷量日本一

(2) 生産・販売状況

- 栽培面積は年々拡大しており、前年より1割増の319haとなった。
- 出荷量は、夏ねぎが4月以降の少雨により減収したものの、秋ねぎの生育は概ね順調で前年を上回っており、上位県との差は縮小している。
- 販売単価は前年より高く、系統販売額は11月20日現在で昨年同期を3億円上回り、過去最高の20億円となっている。

3 しいたけ

(1) 目標 (H31)

- 京浜中央市場における年間出荷量、年間販売額、販売単価の日本一（販売三冠王）

(2) 生産・販売状況

- 生産規模は前年に比べて1割増加し、4,639千菌床となった。
- 出荷量は、全国トップの岩手県との差が昨年より縮小しており、販売額及び販売単価については、上回っている。

【参考 品目ごとの出荷状況（京浜中央市場）】

1 えだまめ

年間出荷量

単位：t

年度	H28	H29	H30見込み		本県との差		
				7～10月	H28	H29	H30
秋田	1,673	1,626	1,449	1,449	-	-	-
群馬	1,949	1,883	1,718	1,437	276	257	269

※ H30見込みは暫定値

2 ねぎ

7～12月出荷量

単位：t

年度	H28	H29	H30見込み	本県との差		
				H28	H29	H30
秋田	4,468	4,173	4,394	-	-	-
茨城	6,686	6,975	6,618	2,218	2,802	2,224
青森	4,941	4,796	4,642	473	623	248

※ H30見込みのうち、11月以降は推計値

3 しいたけ

年間出荷量

単位：t

年度	H28	H29	H30見込み	本県との差		
				H28	H29	H30
秋田	1,945	1,890	2,029	-	-	-
岩手	2,106	2,235	2,119	161	345	90

※ H30見込みのうち、11月以降は推計値

年間販売額

単位：百万円

年度	H28	H29	H30
秋田	2,460	2,384	1,160
岩手	2,118	2,155	912

※ H30は4～10月

販売単価

単位：円/kg

年度	H28	H29	H30
秋田	1,257	1,246	1,153
岩手	993	949	869

※ H30は4～10月

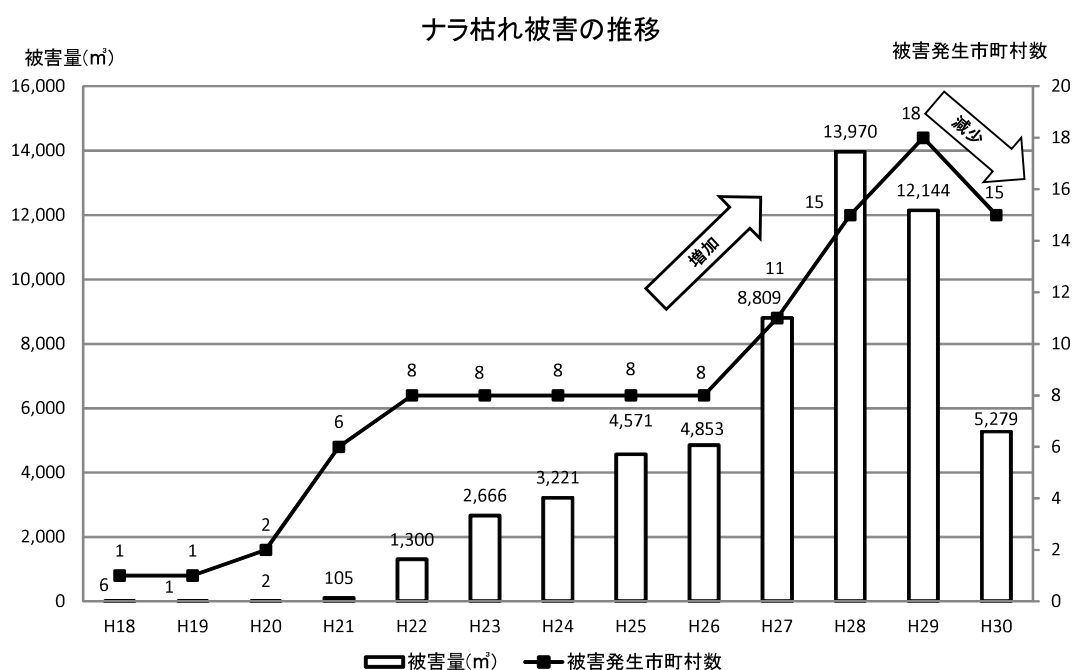
2 ナラ枯れ被害の発生状況について

森林整備課

1 被害の発生状況

本県の民有林における平成30年度のナラ枯れ被害量は、5,279^m₃（17,596本）で、対前年比43%と大幅に減少した。被害発生市町村数は、前年の18から15に減少し、新たに被害が発生した市町村はなかった。

地域別では、山本管内が対前年比27%、秋田管内が同17%、由利管内が同50%、雄勝管内が同30%と大幅に減少したが、仙北管内は同118%と増加した。



※被害量は0.3^m₃/本で算定

2 被害量減少の主な要因

防除効果に加え、気象要因により減少したものと考えられる。

- 従来から実施している被害木の伐倒駆除や樹幹注入に加え、新たに県単独事業で実施した被害先端地域での未然伐採により、拡大が抑制された。
- 6月中旬に低温が続いたことにより、ナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシの個体数の増加が抑制されたことや、夏場の降水量が多かったため、樹木のストレスが抑えられ、抵抗力が維持されたものと推測される。

3 今後の被害防止対策

これまでの対策により被害量は減少しているものの、気象条件等によっては、被害拡大が懸念されることから、引き続き、次のとおり対策に取り組んでいく。

- 被害の拡大を防止するため、被害木の伐倒駆除を徹底する。
- 未被害木の予防対策として、樹幹注入を実施する。
- 被害の拡大を未然に防止するため、高齢ナラ林の積極的な伐採・利用を促進し、ナラ林の若返りを図る。

【参 考】

1 市町村別被害量

市町村	年度	被害量(m ³)		
		H28	H29	H30
鹿角市		-	-	-
小坂町		-	-	-
大館市		-	-	-
北秋田市		-	-	-
上小阿仁村		-	-	-
能代市		13	47	13
藤里町		-	0	-
三種町		5	38	9
八峰町		63	1,274	350
秋田市		286	208	44
男鹿市		957	432	66
潟上市		45	36	6
五城目町		-	3	-
八郎潟町		-	-	-
井川町		-	-	-
大潟村		-	1	-
由利本荘市		2,008	1,734	704
にかほ市		900	831	593
大仙市		46	156	181
仙北市		5	74	128
美郷町		3	74	51
横手市		1,628	1,616	1,460
湯沢市		7,745	5,113	1,460
羽後町		34	180	60
東成瀬村		232	327	154
計		13,970	12,144	5,279

2 ナラ枯れ被害防止対策関連事業の実施状況

事業	事業種	H28(実績)		H29(実績)		H30(計画)	
		事業量	事業費(千円)	事業量	事業費(千円)	事業量	事業費(千円)
国庫補助事業 (森林病虫害等防除 対策事業)	樹幹注入(本)	3,140	13,146	1,651	5,945	1,900	7,571
	伐倒駆除(m ³)	175	6,553	47	1,517	300	9,434
県単独事業 (ナラ枯れ被害拡大防止 緊急対策事業)	樹幹注入(本)	-	-	1,252	3,761	1,500	6,750
	伐倒駆除(m ³)	-	-	467	8,910	200	6,000
	被害未然防止伐採(m ³)	-	-	9,000	27,000	13,800	41,400
計			19,699		47,133		71,155